

ていばーく所蔵錦絵紹介（保永堂版③⑤）

東海道五拾三次之内 吉田 豊川橋（愛知県豊橋市）



吉田城の方から見下ろすように豊川とそれに掛かる豊川橋が描かれています。豊川橋は吉田橋とも呼ばれ、長さが120間（約218メートル）あり、東海道の中では岡崎の矢作橋やはぎに次いで2番目に大きな橋でした。

吉田城の櫓やぐらには工事用の足場が組まれており、職人が壁の補修など改修を行っている様子や、足場の天辺から景色を遠望しているユーモラスな姿がみられます。

ていばーく所蔵資料紹介④⑧

佐久間象山の電気治療器

佐久間象山は、多才な幕末の科学者で思想家でもありました。電池や磁石、コイルを使って電気の研究を行い、日本人で最初に電信機の実験を行ったと言われています。

この電気治療器は、ボルタの電池（写真右）と誘導コイルを使って電氣的なショックを与えるもので、人形の持つ剣を鉄の棒で擦ると、手前の握り棒に電気ショックが伝わります。

残念ながら中の誘導コイルは失われていますが、コイルが横置きしてあった痕跡が残っています。



（錦絵／資料解説：附属資料館 井上卓朗）